

学芸通信

第91号

2011年7月20日発行
浜松学芸中学校・高等学校
浜松市中区下池川町34番3号
<http://www.gakugei.ed.jp>



と き わ 祭



題字：芸術科書道課程2年 鈴木翔磨



充実した夏休み

人を理解するということ

校長 大塚 功

4月から6月（原稿の締切が6月末）までの3ヶ月を振り返りますと生徒達は本当に真面目に学校生活に取り組んでいます。そこで、その一部を紹介します。新しいところでは、6月に行われた「ときわ祭」です。あいにくの大雨の中、多数の保護者の皆様にお越し頂き誠に有り難うございます。雨のため心配された来場者も1800人余に上りました。「ときわ祭」は、数年前からHR展を中心としたものに変えてきましたが、その成果が表れてきたものであったと感じました。生徒会の役員は勿論ですが、各クラスのリーダーが指導力を発揮し生徒一人一人の協力が形となっていたと感じました。記念館でのホールイベントもファッションショーは勿論であります。ハンドベル部や琴部の演奏が年々向上しているように思われました。さらに、多くの遊休品をご提供いただきましたチャリティーバザーでは、総額421,526円（遊休品247,396円、芸術品174,130円）の売上がありました。吹奏楽定期演奏会での募金・食品バザー売上金と合わせまして中日新聞社を通して、被災地に届けます。

部活動に目を向ければ、女子卓球部の活躍が光りました。全国高校総体の地区予選を圧勝し、県大会に臨み、ダブルス・シングルの全国大会と団体の東海大会への出場権を獲得しました。また、女子アーチェリー部も個人が東海大会に出場しました。文化部では、囲碁部が団体で県大会に出場し、放送部もNHK杯アナウンス部門において県大会に出場しました。吹奏楽部は、中部日本吹奏楽コンクール静岡県大会で優秀賞（高校小編成・県第3位）を受賞しました。また、個人では国際ソロプチミスト浜松・ユースフォーラムで優秀賞を受賞した生徒もいます。次に、芸術科と中学校について報告します。美術課程と書道課程では、全国高文祭（福島大会）にそれぞれ静岡県の代表として出場することが決まっていたのですが、震災の関係で大会が縮小されて開催されることになり福島には行けないことになりました。また、書道課程は、NHK高校生講座「書道」に出演し、6月27日と7月11日に全国放送されました。電子音楽課程では、ジュニアエレクトーンフェスティバル2011で金賞を受賞しました。音楽課程では、大学主催のコンクールで優秀賞を受賞し、イタリア短期留学を決めた生徒がいます。中学は、開校時から取り組んでいるNIEの活動に対して、新聞協会から特別賞を頂きました。また、中学は少人数ではありますが、吹奏楽部に所属し高校生と共に大会に出場しています。そして今年は、中体連の大会にも卓球部・剣道部に続いてサッカー部が単独チームとして初めて大会に出場します。こうした、生徒達の活躍は年々充実したものとなっています。そして、ここで紹介できなかった生徒達の中にも勉強と部活動を両立し、活躍している多くの生徒がいることが学芸の特色です。

日本のユング派心理学の第一人者である河合隼雄さんは、エッセイ集「こころの処方箋」の中で「人の心などわかるはずがない」と書いています。「他人の心がすぐにわかるのではないかとよく言われる。私に会うとすぐに心の中を見すかさずさそうで恐い、とまで言われる。」「しかし、実のところは、一般の予想とは反対に、私は人の心などわかるはずがないと思っているのである。」「人の心がいかにわからないかということ、確信をもって知っているところが、専門家の特徴である。」このように、日本の心理学の第一人者である河合先生でも相手の心はわからないのです。専門家から見れば、人間同士が完全に理解し合えることはないのでしょう。ところが、生徒と話していると「自分のことを理解してくれない」とか「自分の伝えたいことが誤解されている」という悩みが多いのです。しかし、全てを理解してもらえない必要がないと考えれば、「気持ちを通じたと感じる時があり」「自分の意見を肯定してくれる人が一人でもいること」があれば、充分であると考えればいいのです。どうして分かってくれないの考える前に、話を聞いてくれる人がいることに感謝する気持ちが大切なのだと思います。

今回の震災後、テレビ・ラジオのリクエストの中で最も希望の多い曲は、平原綾香さんの「Jupiter」と聞きました。その歌詞には、「Every day I listen to my heart ひとりじゃない 深い胸の奥で つながってる 果てしない時を越えて 輝く星が 出会えた奇跡 教えてくれる」「私のこの両手で 何ができるの 痛みに触れさせて そって目を閉じて 夢を失うよりも 悲しいことは 自分を信じてあげられないこと」「私たちは誰もひとりじゃない ありのままずっと愛されている 望むように生きて輝く未来を いつまでも歌うわ あなたのために」と書かれています。大震災の被災者の方々が救われたのは、きっとどこかで見守っていてくれる人々の心を感じたときなのではないのでしょうか。全ては理解できなくても、どこかで繋がっていると感じる力が生きる力を生むのです。

をすごそう!!



中学校 NOW

学校らしい学校に…⑩

どこの学校にも「伝統的な行事」というものが幾つかあると思います。本校では「ときわ祭」がその代表格。開校して110年になろうとする高等学校の長い歴史に背負われる形で、中学部の「ときわ祭」も今年で4年目を迎えました。初めて高校に進んだ第1期生が残していった足跡を161名全員で迎えるかのように、生徒個々が真剣かつ前向きに準備を進め、当日の盛り上がりは最高潮に達しました。みんなで何かを創り出す難しさと、その困難を乗り越えたときの満足感は、その場で奮闘した生徒たちでなければ表現できません。そこで、それぞれの代表者に言葉を寄せてもらいました。

『1年生学年合唱』 内山 岳 (J12)

6月11日。僕たちはこの日のために毎日練習をしてきました。毎朝の合唱練習、そして学芸タイムにも練習をしました。当日は緊張してのどがカラカラでした。ステージに上がったときには、もう倒れそうでした。ピアノの伴奏で1曲目が始まり、気付けばもう2曲目が終わっていました。先生にほめられ、とても嬉しかったです。学芸に来て、良い思い出がまた1つ増えました。



『J21の努力』 西野美咲 (J21)

私たちは「怪盗キッドの挑戦状」というテーマでHR展を開きました。思ったより準備がたいへんで、ときわ祭までに間に合うか心配でした。しかし、みんなが放課後遅くまで作業をしてくれたので、間に合わせることができました。「もしも当日にお客さんが来なかったら」という不安がありましたが、子どもから大人まで予想以上の人が来てくれたので安心しました。J21全員の努力のおかげだと思いました。



『理事長賞をとって』 藤井真理 (J22)

賞がとれると思っていたので、表彰式でJ22が呼ばれた時にはビックリしました。賞状をもらっている時も「何かの間違いではないかなあ」と思っていました。初めてのHR展だったので、何をすればよいのかよく分かりませんでした。クラスのみんなと結構がんばったと思います。上手いかわからないこともたくさんありましたが、本番は楽しめたし、賞もとれたので良かったと思います。



『もっと良くしたい』 富田洋瑛 (J31)

僕たち中学3年1組は、平成23年度ときわ祭において「ベスト・オブ・学芸 中学の部」を受賞しました。しかし、他の3クラスと差は殆どなく、似たり寄ったりのものでした。だから来年度のクラス展は、今年とは少し違ったものにしようと思います。高校生のクラス展に相応しい、中学生の発想とは違った「完成度の高い」ものにしたいです。

『J32』 本田みのり (J32)

やばい、と思ったのはときわ祭の1週間前。浮かばないアイデア、班同士の衝突など問題は山ほどあったのに、私が悩んでいる間に解決していきました。自分が悩んで下を向いている時、みんなは歩き出している。1人じゃないのに1人ですべてやろうとしていました。そのことに気付かされました。全く同じHR展がないように、全く同じクラスはなく、皆で作ったJ32でのときわ祭を、私は誇りに思います。

秋には中学部単独の「文化発表会」という行事があります。今年は11月19日(土)の午前9時から本校の中村記念館ホールで開催します。内容は、学芸タイムでの活動成果の発表と合唱コンクールです。浜松学芸中学校の伝統行事といえば「文化発表会」という確固たる位置づけになるように、着実に築き上げていきたいと思っています。

(中学部長：内藤純一)

進路指導課

一夜漬けの記憶が長持ちしない仕組みが解明されたようです。

実験では、4.5秒で一往復するチェッカーボードをマウスに見せ、ボードに追従する眼球の動きの大きさを学習効果を測りました。1時間集中的にボードを見せたマウス、30分、1時間、24時間の休憩を取って15分ずつ4回繰り返し見せたマウスなどの比較で、直接的な学習効果に差はなかったものの、学習終了後24時間経過の時点では集中学習を受けたマウスは運動量が半分くらいに減少していました。つまり半分忘れてしまっていることが分かったようで、反対に間隔を置いて学習を受けたマウスはほぼ完全に覚えていて運動量はさほど落ちなかったとのこと。

運動学習による記憶は小脳皮質、長期の運動学習による記憶は小脳核にとどまっていることが既に分かっていますが、小脳皮質に局所麻酔剤を投与して小脳皮質の活動を止める実験を行ったところ、集中学習させたマウスの記憶は消えてしまったのに対し、一定の間隔を開けて何度か作業させたマウスの記憶には影響がなかったそうです。これは、集中学習での記憶は小脳皮質に留まったまま、小脳核へ移動しないことを示しているのです。

(理化学研究所のマウスを使った実験から)

学習量による記憶量の差はなくても、記憶を定着させ自分の学力にするためには、とりあえず休憩を挟んで繰り返しの学習が必要ということのようです。同じ学習時間であっても、反復した勉強の方がより効果的だということをご理解いただけたことでしょうか。定期試験前に無理やり頭に詰め込んだ知識は、自分の学力を高めてくれません。将来に渡って自分を助けてくれる学力は、担任や教科の先生方が常々いわれる、「平日3時間、休日5時間」のためまいな努力が作り上げてくれるのです。

◆高校3年生へ

部活動も終わり、もっぱら受験に向けて猛勉強している、あるいは猛勉強しようとしているところでしょう。まずは、センター試験をいかに乗り切るかが当面の課題です。科目によっては、センター試験と個別学力試験とは取り組み方や勉強方法が大きく異なるようです。過去問に当たり、それぞれの特徴をつかんで確実に得点できるようにしていきましょう。

◆高校2年生へ

6月に行われた「卒業生学習フォーラム」では、先輩の話を熱心に聞き質問する姿がありました。進路に関して一生懸命考えていこうとする姿勢が見受けられました。具体的な目標が決まったとき、人はとてつもないパワーを出すものです。君たちの今後が本当に楽しみです。

◆高校1年生へ

夏休みに、もし家族で旅行される場合は、できたらその中に大学見学も入れてみたらどうでしょうか。卒業生の中には、最初に見た大学が気に入りそのまま入学していく方が多くいました。事前に大学の入試課(大学によって名称が異なります)に連絡を入れておくと、大学案内などがもらえるかも知れません。(山口)



▲東大学習コーチ(4月)



初期指導合宿(4月)▶

【美術／書道】作品展

(同時開催：第12回浜松学芸書道コンクール作品展)

ことし創設10年目を迎える書道課程と20余年の美術課程。その作品展がこの秋も大々的に開催されます。

美術の生徒は、静岡デッサンや各専攻別の大作90余点を展示。世界地図をテーマにした共同作品や発泡スチロールを利用した立体作品、CG・アニメーション作品等もあり、盛り沢山です。また、昨年に引き続き、生徒によるギャラリートークも予定しています。

書道では、7人の生徒がみなさんを感動させるべく鋭意努力中とのことです。節目の年にふさわしい、上品な、そしてだれもが楽しめる展覧会になると思いますので、みなさん、お誘い合わせの上、ぜひご覧ください。

なお、小・中学生対象の「浜松学芸書道コンクール」入選作の展示もあわせて行います。

◆会期：2011年9月22日(木)～25日(日)

◆開場：9時30分～19時

◆会場：

作品展＝クリエート浜松3階 ギャラリー 31～34(入場無料)

書道コンクール＝同1階 ふれあい広場(入場無料)



【音楽】第30回定期演奏会

音楽課程の学習の成果を発表するとともに、この地域の音楽文化向上に役立てばとの思いで、毎年秋に浜松市教育文化会館(はまホール)で開催しています。学校関係者以外にも、毎年楽しみに足を運んでくださる一般のファンも大勢いらっしゃいます。今回は30回目の節目の演奏会です。

選ばれた生徒による独奏、また声楽専攻の生徒を中心にオペラ等が演奏されます。今年のオペラは、モーツァルトの名作オペラ『フィガロの結婚』のハイライトを、小オーケストラの伴奏で上演します。

そして演奏会の最後を飾るのが音楽・電子音楽課程生徒全員81名による合唱です。クラシックの名曲から、『世界にひとつだけの花』『ジュピター』等、みな様おなじみの曲まで、多彩な曲が歌われます。

9月に入ると合唱は授業前の朝に、その他は放課後にと、全員心を合わせての猛練習で演奏会に備えます。

◆日時：2011年10月1日(土)

13時30分開場 14時開演

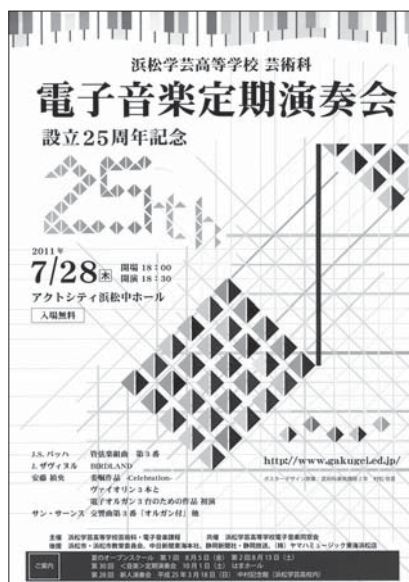
◆会場：浜松市教育文化会館(はまホール)／入場無料

【電子音楽】設立25周年記念 定期演奏会

高校の専門教育として日本で唯一の電子音楽課程は今年設立25周年を迎えます。今回の定期演奏会は、これまで通り生徒が日頃の学業の成果を発表する機会であると同時に、25年間本課程で培ってきた電子オルガン教育の集大成を披露する機会であると、教員・生徒一同気を引き締めて準備に臨んでいます。本校卒業生のエレクトーンプレーヤー・安藤禎央さんが、この演奏会のためにバイオリン3本と電子オルガン3台のためのオリジナル曲を作曲してくださいました。ソロとアンサンブルによりクラシックとポピュラーの名曲を贅沢に交え、誰にでも楽しんでいただける、ハイレベルでエキサイティングな舞台を目指しますので、是非ご期待下さい。

◆日時：2011年7月28日(木) 18時開場 18時30分開演

◆会場：アクトシティ浜松中ホール／入場無料



ポスターデザイン原案
芸術科美術課程2年
村松佳苗

図書室から

いよいよ夏休み。みなさんはどんな計画をたてていますか？ 部活動、受験勉強、「夏期ゼミ」……、そして家族旅行。中学生のみなさんには読書感想文、高校の1・2年生には読書記録の課題も出ているのではありませんか。

そんなみなさんには、強い味方、図書室があります。話題の図書から受験参考書、旅行のガイドブック、各種辞典に月刊誌等等。冷房のきいた閲覧室で、ゼミや部活の合間に読んだり勉強したり……大いに利用しましょう。

ただし、ことしは「夏期節電対策」の影響で、例年と比べ開館時間が短くなっていますので注意してください。

◆夏休み中の開館日

8月 1日(月)～ 5日(金)

8月 8日(月)～ 12日(金)

8月 22日(月)～ 26日(金)

◆夏休み中の開館時間

午前10時～午後3時



生徒募集課

今年度の学芸ガイド(中学・高校)はお読みいただきましたでしょうか。本校には多くの科・課程があります。中学校も含めて学校全体について知って頂きたい、という思いから配布をさせて頂きました。これを機会に、学芸の様々な教育内容について、ガイドを通じて知っていただければありがたく存じます。

お陰さまで、昨年度、部活動では運動部・文化部ともに全国大会に出場。芸術科も各コンクールで最高賞受賞など活躍してくれました。さらに、合格実績でも『サンデー毎日』『週刊朝日』といった雑誌の進学特集に取り上げられました。自信を持ってお声がけ頂けるのではないかと自負しております。お近くに小学校5・6年生の保護者、中学校3年生の保護者の方がおられましたら、気軽にお声がけ頂ければ大変嬉しく思います。

中学校と高校の募集日程は以下の通りになっております。

◇中学校夏のオープンスクール 7/23(土)……授業体験型→申込必要 8/5(金)……部活体験型→申込必要 ゼミ見学型→申込不要 ※秋のオープンスクール……11/5(土)、冬のオープンスクール……12/10(土)
◇中学校入試個別相談会 8/1(月)～4(木)、9/3(土)、9/17(土)、10/1(土)、10/29(土)、11/19(土)、12/17(土)、12/22(木)、12月26(月)～28(水) 9:00～12:00 随時受付、申込不要
◇学芸中学入試レクチャー 10/29(土)→申込必要 過去の入試問題解説と入試に向けての学習方法の指導(国・算・理・社)
◇高校夏のオープンスクール ・普通科 8/5(金)……ゼミ見学型、申込不要 8/13(土)……授業体験型、申込必要 ・芸術科(音楽・電子音楽・美術・書道) 8/5(金)、8/13(土)……実技体験、申込必要 ※秋のオープンスクール……11/5(土)、冬のオープンスクール……12/10(土)
◇高校入試個別相談会 上記中学校入試個別相談と同じ日程
◇芸術科実技相談会(実技の適性判断) 第1回 12月3日(土) 申込必要 第2回 1月7日(土) 申込必要

一 学校の会計(平成22年度)

平成22年度の学校の財務諸表は、5月24日付けの公認会計士による法定監査調書、5月26日の法人監事による内部監査で適正な表示と認められ、また5月27日の法人評議員会、理事会において同じく適正・妥当であると承認され所轄庁に提出いたしました。

文部省令にもとづく学校法人会計基準に則って資金収支計算書は学校の一年間のすべての教育活動に伴う資金の動きを表示し、消費収支計算書は帰属収入より基本金組入額を控除した消費収入に減価償却額等の資金の動きを伴わない経費を含めすべての消費支出を対応させて、当年度における学校経営の消費収支状況を明らかにし、貸借対照表は平成23年3月31日における学校の財政状態のすべて、即ち資産・負債・基本金・消費収支差額を表記したものです。

資金収支計算書

(単位 千円)

科目	金額
学生生徒納付金収入	577,856
手数料収入	20,131
寄付金収入	50
補助金収入	361,856
資産運用収入	2,525
雑収入	4,996
借入金収入	0
前受金収入	79,856
その他の収入	19,446
資金収入調整勘定	△ 94,581
前年度繰越支払資金	37,801
収入の部合計	1,009,936

消費収支計算書

(単位 千円)

科目	金額
学生生徒納付金	577,856
手数料	20,131
寄付金	818
補助金	361,856
資産運用収入	2,525
資産売却差額	0
雑収入	1,376
帰属収入合計	964,562
基本金組入額	△ 12,751
消費収入の部合計	951,811

貸借対照表

(単位 千円)

科目	金額
固定資産	3,332,735
流動資産	53,369
資産の部合計	3,386,104

固定負債	561,698
流動負債	127,614
負債の部合計	689,312

基本金の部合計	3,260,652
---------	-----------

消費収支差額の部合計	△ 563,860
------------	-----------

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	3,386,104
------------------------	-----------

注： 減価償却額の累計の合計	1,358,756
基本金未組入額	312,711

人件費支出	692,952
教育研究経費支出	112,857
管理経費支出	29,137
借入金等利息支払支出	6,448
借入金返済支出	39,356
施設関係支出	0
設備関係支出	4,801
資産運用支出	65,555
その他支出	16,909
資金支出調整勘定	△ 3,857
次年度繰越支払資金	45,778
支出の部合計	1,009,936

人件費	727,061
教育研究経費	202,473
管理経費	29,536
借入金等利息支払	6,448
資産処分差額	71
徴収不能額	343
消費支出の部合計	965,932
当年度消費収支差額	△ 14,121
前年度繰越消費支出超過額	△ 549,739
翌年度繰越消費支出超過額	△ 563,860